



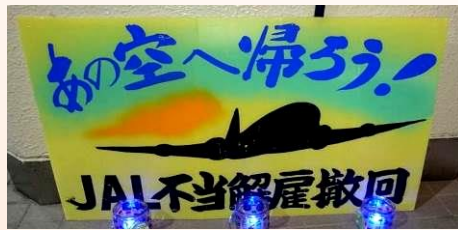
JAL不当解雇撤回ニュース

No458号 20015.08.21
発行: JAL 解雇撤回国民共闘事務局
連絡先: 航空労組連絡会事務局
〒144-0043 大田区羽田 5-11-4
フェニックスビル内
TEL:03-3742-3251 FAX:03-5737-7819
<http://www.jalkaikotekkai.co>

失われた命を生かして

～8.12 連絡会事務局長 美谷島邦子さんの言葉から～

乗客乗員 520 名の命を奪った JAL123 便の事故から 30 年目の 8 月 12 日夕方、原告団は支援者と共に空の安全を求める全国一斉空港宣伝を行ないました。ここに改めて犠牲となられた方々のご冥福をお祈りいたします。帰省ラッシュにわく各空港ではビラの受け取りも良く、空の安全に寄せる強い願いを感じました。突然大切な人を失い、穏やかな日常生活が奪われた悲しみは、決して癒えることはありません。2 度と悲惨な事故を起こしてはならない、安全は私たちに課せられた絶対の使命です。JAL 経営の「利益なくして安全なし」「御巢鷹山がトラウマになっている」発言は、事故当時を知っている原告団にとって言語道断です。「絶対安全」は JAL 設立以来の国民との約束なのですから。



大阪伊丹空港 (18 時半～20 時)いつもよりプラカード・横断幕・ゼッケンを多めにして静かに 1000 枚のビラをまきました。そしてキャンドルライトを灯し、18 時 56 分参加者 60 名全員で黙祷を捧げました。おりしも遺族 3 名の方々から声をかけていただきました。お父様を亡くした遺族は「自分が父と同じ年になり、初めて伊丹にこの時間に来ることができました」空港ロビー中側に向けた垂れ幕を見た遺族は「写真を撮っていいですか？頑張ってください」と。又、「私も黙祷に加わりたかった」とおっしゃる方もいらっしゃいました。



羽田空港 (17 時～18 時)

41 名で 500 枚のビラを配布。「知人が犠牲になりました」と言ってビラを受け取った方や、この事故を知らない世代にも積極的にビラを差し出しました。



松山空港 (18 時～19 時)

過去最高の 38 名でビラ 300 枚配布。「うたごえ」の参加で注目度が上がりました。愛媛民報の取材も受けました。

福岡空港 (18 時～19 時)

9 名の参加者でビラ 360 枚を配布。「事故の事は覚えていない。ゆっくり読みたい」と声をかけて頂きました。



私たちは事故で多くの命を失ってきたからこそ、差別にも屈せず安全を訴えてきました。しかし JAL 経営はその貴重な経験を持つ社員を解雇して、再び物の言えない職場にしようとした。なぜ私たちが闘い続けているか、それは理不尽な解雇に納得できない事はもちろん、この解雇が「JAL の安全」と切り離せない問題であるからです。安全最優先の会社として再建するためには、まずこの違法な解雇を撤回することではないでしょうか。私たちはその日まで頑張ります。